

あお

県民
だより

2016
4
月号
No.156

CONTENTS 目次 平成28年4月1日発行(偶数月1日発行)

- 特集：人幸増加大作戦！／平成28年度一般会計当初予算……………1～3
- 人口減少克服に向けた3つの戦略プロジェクト……………4～5
- 地域県民局の取組……………6
- 創造的復興に向かって！～東日本大震災から5年～……………7
- 県立高校に関する次期計画を検討中です！
- 大雨洪水に備えて～身近な河川の水位等をチェックしよう～
- おいしく健康「だし活」ごはん！／あおもりインフォメーション……………8

人幸増加大作戦！

申吾の
ほっとコラム

子どもいきいき青森

「私は日本が子どもの天国であることをくりかえさざるを得ない。世界中で日本ほど、子どもが親切に取り扱われ、そして子どものために深い注意が払われる国はない。」

「私はこれほど自分の子どもに喜びをおぼえる人々を見たことがない。(中略)他人の子どもにもそれなりの愛情と注意を注ぐ」長い引用となったが、それぞれ大森貝塚発掘で有名なモース、日本を旅し、青森も訪れたイザベラ・バードの言葉である。

この二人だけではなく、明治の初めに日本を訪れた数多くの西洋人による類似した言葉が残されている。

現代の目から見て、彼らを感じたように子どもたちの楽園であったかの議論はさておき、子どもが子どもとしていきいきと輝き、親だけではなく社会においてとても大切にされていた姿を想像することは許されると思う。

今、日本の地方はそれぞれに人口減少社会対策という、大きな長期的課題に挑戦しようとしている。

その時、最も重要なことは、子どもたち、つまり「未来」に選ばれる地であることだと確信する。だからこそ現在、青森の未来を担う子どもたちが、青森で生まれ、希望をもって成長し、その希望をふるさと青森の地で実現できるよう地域をあげて支援するとともに、子どもたちの希望を実現するための環境を整える取組である「子ども・未来の希望プロジェクト」を展開している。

近い将来この地を訪れた現代のイザベラ・バードが、いきいきと暮らす子どもたちに感嘆する、そんなふるさと青森をめざし、チャレンジし続けたい。

青森県知事 三村 申吾

表紙：三村申吾知事と中泊町立小泊小学校平成27年度4・5・6年生の皆さん



人口減少の背景には、さまざまな問題が密接に関わっており、
一朝一夕に解決できるものではありません。

しかし、青森県にとって、人口減少克服は「待ったなし！」の最重要課題です。

では、人口を増やす、あるいは、少しでも減少を食い止め、安定させるにはどうすればよいのでしょうか。
それは、一人ひとりが「青森に生まれて良かった！」と「幸せ」を実感しながら暮らしていける地域をつくること。

さらに、その「幸せ」を子どもたちへと、世代を超えてつないでいくことではないでしょうか。

このように、人口減少克服への道は、県民の皆さんの幸せの増加につながる道です。

今回、「人幸増加大作戦」というキャッチフレーズを作りました。

ピンクのハートが付いている「幸」に目が行きませんか？

これは、「県民の皆さんと力を合わせ、一緒に“幸せ”を大きく育てたい」という想いを込めたものです。

この「人幸増加大作戦」のもと、県は市町村、民間企業、関係団体と連携して、

県民の皆さんと一緒に、未来を変える挑戦をしていきます。

「待ったなし！」の現状から、“幸せ”あふれる青森県を目指して

人幸増加 大作戦！

逆転の発想で
課題をチャンスに！

平成26年度からスタートした「青森県基本計画未来を変える挑戦」では、「強みをとことん課題をチャンスに」という基本コンセプトを掲げています。これは、「食」などの本県の強みをとことん生かすとともに、他県よりも速いスピードで進む人口減少や、男女とも全国最下位の平均寿命など、本県が抱える課題を逆転の発想で伸びしろの大きいチャンスと捉え、大きな成長につなげていくというものです。

基本計画では、「人口減少克服」「健康長寿県」「食でとことん」の3つの戦略プロジェクトを設け、部局や分野を横断した取組を進めています。中でも、人口減少克服は、本県の最重要課題であることから、3つの戦略プロジェクトを集結させて、重点的に取り組んでいます。

これまでの
取組を「加速」

平成28年度は、5か年計画の「青森県基本計画未来を変える挑戦」の折り返し地点であり、また、昨年8月に策定した「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」による人口減少克服に向けた取組を本格展開する重要な年でもあります。

そのため、多角的な視点で平均寿命のアップ、若者の県内定着や移住の促進、県産品の競争力強化、さらに、北海道新幹線の開業効果を最大限生かした観光客の増加など、人口減少克服に向けた取組を一層加速していきます。



青森県の人口減少の
要因はこの2つ

全国の中でも速いスピードで人口減少が進んでいる青森県。その要因は、就職や進学で若者が県外に転出することなどによる「社会減」と、出生数の減少や、男女ともに平均寿命が短いことなどによる「自然減」の両方が進んでいるためです。

このまま人口減少が進むと、地域経済が縮小し、買い物や公共交通の利用ができなくなるなど日常生活に支障をきたすだけでなく、伝統文化や祭りの継承ができなくなるなど、さまざまな面で私たちの生活に影響が及ぶことが懸念されます。

果敢な取組で
人口減少に歯止め

平成27年国勢調査速報によると、本県の人口は約130万9千人。前回より約6万5千人の減となり、人口減少は加速しています。

その一方で、国立社会保障・人口問題研究所の推計値を上回る結果となりました。これからも、本県の強みを生かし、県民の皆さんと一緒に、これまで以上に果敢に取り組んでいく必要があります。



人幸増加大作戦! 高校生も参加しています!

県では、人口の社会減対策の一環として、若者の県内定着促進に向けたさまざまな取組を行っています。その一つに、青森県の暮らしやすさを若者向けに分かりやすく紹介する冊子の作成があります。この冊子は、青森県の暮らしやすさを表す各種統計指標を収集し、11分野108項目に整理した「青森県の暮らしやすさ指標」などを用いて、県内外の若者向けに本県の暮らしの魅力を伝えるために作成しました。本県での暮らしやすさを首都圏近郊の地域と比較した結果も掲載するなど、さまざまな角度から本県の暮らしやすさを分かりやすく紹介する内容になっています。



八戸水産高校での取材風景

この冊子には、県内の公立・私立合わせて12高等学校の生徒が登場しており、青森県の暮らしやすさを示す統計指標に関連づけられたシーンの主人公を演じてもらいました。それぞれのシーンは、各校が普段から力を入れて取り組んでいる内容を生かして構成されています。各校の特徴がよく現れている内容となっています。

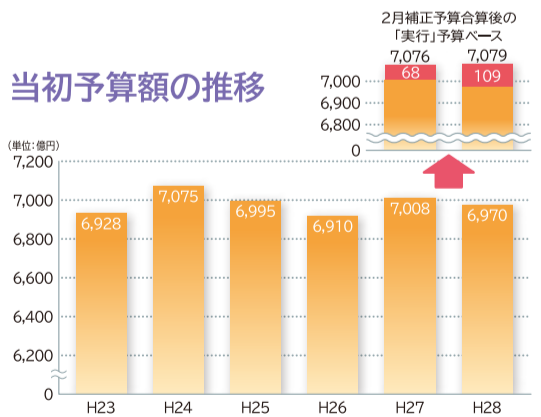
この冊子は、県内全ての新高校2年生に配布するほか、各市町村の図書館や公民館などでもご覧いただけます。



平成28年度 一般会計 当初予算は6,970億円 (対前年度比0.5%減)

「青森県行財政改革大綱」に基づく財政健全化努力を継続しつつ、「青森県基本計画未来を変える挑戦」及び「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」に基づき、本県の最重要課題である人口減少の克服に全力で取り組むとともに、TPP協定の発効を見据えた農林水産業の競争力強化など、各種施策を積極果敢に展開することとしました。

一般会計の当初予算額は、北海道新幹線鉄道整備事業費負担金の大幅な減額等により前年度を下回りましたが、国の補正予算に呼応して一体編成した平成27年度2月補正予算と合わせると、前年度を上回る規模となっています。



財政健全化に向けた取組

「青森県行財政改革大綱」などに基づいて、財源不足額(基金取崩額)の圧縮及び県債発行総額の抑制に努めました。

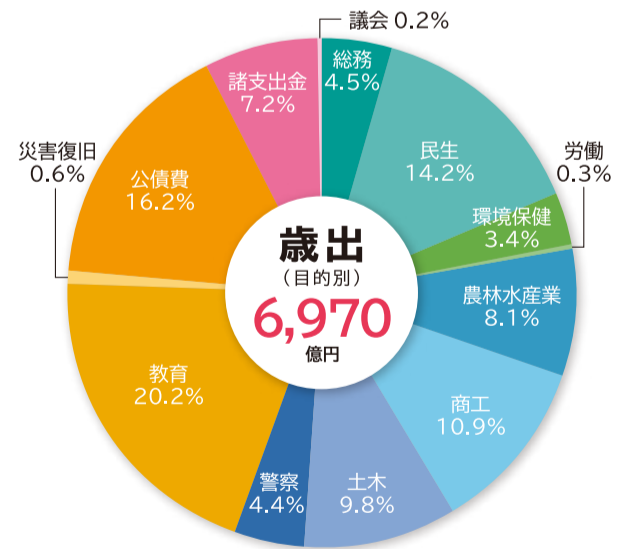
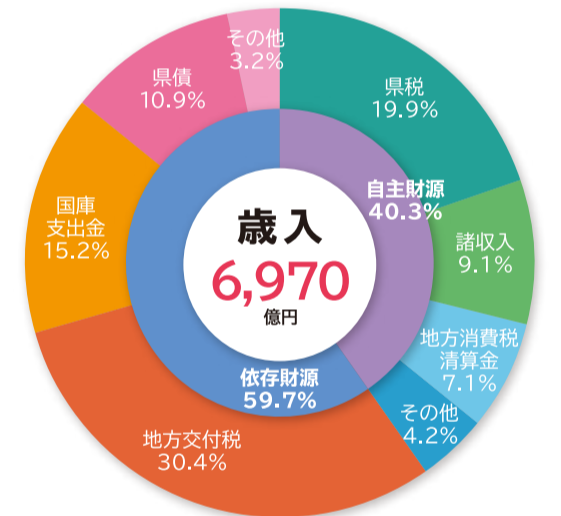
- 県の貯金である基金の取崩額は8億円(前年度と同額)となり、収支均衡型の財政運営を維持
- 県の借金である県債の発行総額を抑制し、県債残高はH28年度末で1兆2,108億円となる見込み(H27年度末見込対比236億円の減)

用語の解説

- 一般会計
県の会計の中心となる会計。行政運営の基本的な経費全般。
- 地方交付税
所得税、法人税、酒税及び消費税の一定割合並びに地方法人税の全額を、国が各地方公共団体に人口、面積、財政力などに応じて交付する税。使いみちは各団体が自由に決められる。
- 国庫支出金
特定の事業を行うために国から交付される負担金、補助金及び委託金。
- 県債
県の長期借入金。原則として、道路や学校などの公共施設の整備に必要な資金に充てられる。
- 公債費
過去に借り入れた県債の元金の返済や利子の支払いなどの経費。

[問い合わせ先] 財政課 ☎017-734-9036

平成28年度一般会計当初予算



4月の「地域県民局の取組」関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送日時
青森放送	大好き、青森県。	4月24日(日) 17:00~17:15
青森テレビ	みんなの県庁!	4月9日(土) 16:55~17:00 4月16日(土) 16:55~17:00
青森朝日放送	メッセージ	4月16日(土) 9:30~9:35 4月30日(土) 9:30~9:35

特集ページ
問い合わせ先

P.2~5 人幸増加大作戦! / 人口減少克服に向けた3つの戦略プロジェクト企画調整課 電話 017-734-9129

P.6 地域県民局の取組
東青地域県民局地域連携部 電話 017-734-9412(地域支援室)
西北地域県民局地域連携部 電話 0173-34-2175(地域支援室)
中南地域県民局地域連携部 電話 0172-32-2407(地域支援室)
三八地域県民局地域農林水産部 電話 0178-27-4444(農業普及振興室)
上北地域県民局地域農林水産部 電話 0176-23-4281(農業普及振興室)
下北地域県民局地域農林水産部 電話 0175-22-9732(むつ水産事務所)

つながり、加速する

3つの戦略プロジェクト

戦 略プロジェクトは、平成26年度に策定した「青森県基本

計画未来を変える挑戦」に掲げる

「強みをとことん、課題をチャンスに」という基本コンセプトに基づき、

中・長期的な視点を持ちながら、分野を横断し、特に重点的に取組を進めるものです。

現在、「人口減少克服」、「健康長寿県」、「食でとことん」の3つの戦略プロジェクトを設定

しており、青森県の最重要課題である人口減少克服に向け、これら3つを有機的に結び付けながら、相乗効果を発揮できるように積極的な取組を

TPP 対策関連事業について

平成28年度はTPP対策として、農林水産分野、商工・観光分野、食品衛生分野の3分野で取り組むこととしています。

農林水産業や関連産業に携わる皆さんが、将来にわたり意欲と希望を持って経営に取り組むことができるよう、そして、本県農山漁村を守るよう、世界に誇れる豊富な農林水産資源と、これを支える恵まれた生産基盤、経験豊かな人財を生かした「攻めの農林水産業」や輸出拡大などを一層推進していきます。

人口減少克服に向けた戦略プロジェクトの強化



世界が認める「青森ブランド」の確立

4分野を横断して一層の取組の重点化

4つの視点から 取り組む 人口減少克服

人 口減少克服プロジェクトでは、「人口減少社

会においても持続可能な地域をつくる」、「人口増加につながる移住・定住促進」、「交流人口を増やす仕組みをつくる」、「子どもを産み育てやすい環境をつくる」ことを目指しています。これまで、農山漁村において、地域を一つの大きな会社と見立て、地域全体の経済や雇用を守っていく「地域経営」の仕組みづくりや、県内経済の活性化を図るためのしごとづくり、観光客を増やす取組などを進めてきました。

平成28年度は、これまでの成果を踏まえ、若者の県内定着や、結婚・子育てがしやすい環境づくりと社会全体で支え合う仕組みづくり、首都圏などからの移住促進、北海道新幹線や中国定期航空路線の開設などを最大限に活用した観光客増加など、さらに取組を加速させ、人口減少克服の芽を大きく育てていきます。

人口減少克服プロジェクト 71事業 10.9億円

あおもりで出会い、幸せになろう

～総合的な結婚支援を進めます～

[あおもり出会い協働プロジェクト事業]

県民の平均初婚年齢は男女ともに上昇し、平成26年は、男性が30.6歳、女性は29.0歳となっています。また、生涯結婚をしない人も増加傾向にあり、平成22年の生涯未婚率は、男性が21%、女性が9.8%と晩婚化と未婚化が進んでいます。

そのため、結婚したい方の希望を叶える環境づくりに取り組みます。具体的には、「同性の社員が多く、出会いが少ない」「違う業種の人と交流したいけど、きっかけがない」などの声を踏まえ、独身の社員グループを対象とした「企業間婚活」を進めるなど、企業の結婚支援の気運を高めます。また、結婚に至ったエピソードなどを紹介する県民参加型キャンペーンや、市町村と連携した結婚支援ネットワークの強化にも取り組みます。

新たな出会いを求めている皆さん。社員の結婚を応援したい経営者の皆さん。ぜひ、この取組に参加して、周りの幸せ、そして、自分の幸せを増やしてみませんか。

働いてよしの青森県

～高校生・大学生の県内就職を応援します～

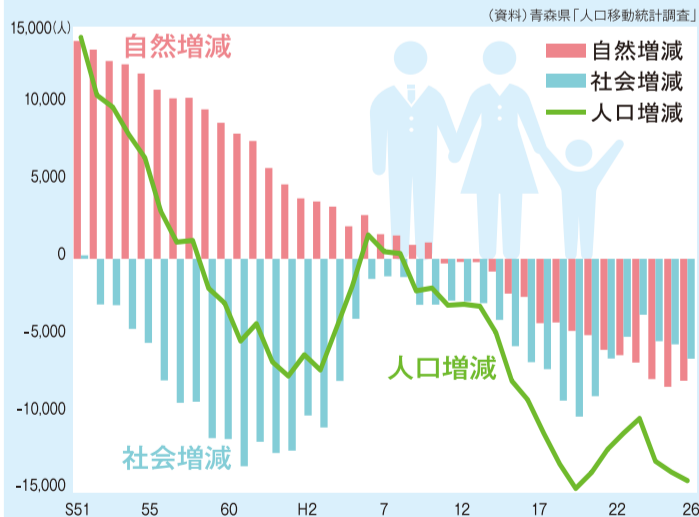
[就活応援・しごと定着事業]

青森県では、就職や進学を契機とした18歳と22歳の若者の県外転出が多く、例えば、高卒就職者の約半数は県外へ就職しています。また、県外に進学すると、県内企業の情報に触れる機会も少なくなり、県内での就職に目が向かなくなりがちです。

そこで、首都圏などでの合同企業説明会を開催したり、県内企業の就職情報の発信を積極的に行うほか、生活環境や働きやすさなど、本県の暮らしやすさについて、指標を用いて分かりやすく示し、若者の県内での就職を促進します。さらに、本県の強みを生かした魅力あるしごとづくりや、創業・起業など、チャレンジする若者へのサポートなど、多くの若者が「ふるさと青森県」で働き、幸せに暮らしていくための取組を進めます。

就職を控えた学生の皆さん。県内には、魅力あふれる企業がたくさんあります。家族や多くの友人たちがいる県内で働きませんか。

社会減・自然減の両面で進む人口減少



これまでの成果

農山漁村の「地域経営」の広がり

【10ha以上の農業経営体】H22:1,426 → H27:1,631

移住相談件数の増加

H26年6月～H27年3月:79件 → H27年4月～12月:175件

外国人など、観光入込客数の増加

【外国人延べ宿泊者数】H22:59,100人泊 → H27:108,180人泊 (速報値)

合計特殊出生率が上向き

H25:1.40 → H26:1.42

みんなで がんのことを学ぼう ～親子で育む「健やか力」～

【子どもも大人もがんを知ろう！
健康あおり推進事業】

がんは、決して助からない病気ではありません。早期の段階で発見できれば、治療することができます。そのためには、がんに対する正しい知識を身に付け、がん検診を受け、そして適切に対処することが大切です。しかし、県民のがん検診受診率は、目標とする50%に届いていないため、その向上が課題となっています。

そのため、県では、受診率の向上に向け、「親子」をキーワードとした新たな取組をスタートさせます。具体的には、「がん予防展」の開催などを通じ、親子で気軽に知識を学び、生活習慣を見直すきっかけをつくることで、健康や検診への関心を高めます。

がんを予防するには、自らの心掛けがとても大切です。自分のため、そして、大切な子どもたちのためにも、親子でがん予防や家族の健康づくりについて学び、生活習慣の改善に取り組み、がん検診を積極的に受診してみませんか。

もっと広めよう！ 青森の食 ～青森の美味しさを全国へ～

【青森プレミアム産品
マッチング推進事業】

平成27年度から、青森の優れた食材を新鮮なまま輸送できる「A!Premium」(エープレミアム)が始まりました。国内での翌日午前配達エリアが、それまでの東北地域から西日本地域まで大幅に拡大し、青森のプレミアム食材を多くの皆さんに楽しんでもらえるようになりました。

この「A!Premium」開始を契機に、西日本地域で本県の食を広める取組が本格的にスタートします。既に青森県フェアなどを通じて県産品の良さを知り、取引に関心を持つ業者もいますが、この輸送サービスを活用した県産品のPRや通常取引に向けた商談会の開催、高級店向けの売り込みなど、攻めの姿勢で販売促進活動を展開し、取引先の開拓と流通量の拡大を目指します。

県内の「A!Premium」対応店舗で県産品を購入すれば、誰でも新鮮な食材を西日本地域に住む親戚や知人へ送ることができます。ぜひ、私たちの自慢である青森の食を大切な人に贈ってみませんか。

県民みんなで取り組む 予防を重視した 健康づくり

健

健康長寿県プロジェクトでは、県民の平均寿命と健康寿命を延ばすことを目指しています。

これまで、「健やか力(ヘルスリテラシー)」の普及・定着の取組を進めてきたほか、県産食材を活用した「だし活」、

病による死亡を減らす取組や、若いうちからの食生活の改善、運動の習慣づけを一層充実・強化していきます。

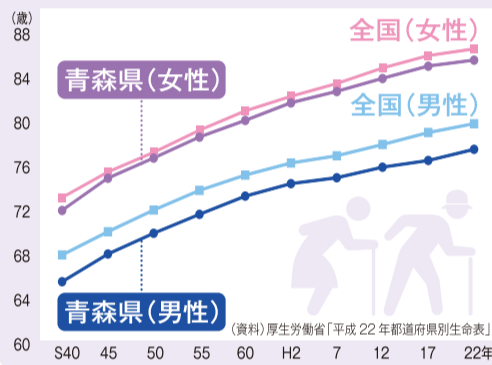
また、医師や看護師の不足に対応するため、若手医師やUIJターンの医師の県内定着を促す体制づくりや、看護師の育成・定着に向けて資格取得を支援する仕組みづくりなどに力を入れていきます。そのほか、成長するライフ関連産業のステップアップに向けた取組も引き続き進めていきます。

「あおり食命人」等による食生活の改善や、自然を活用した運動の働きかけ、地域の保健・医療・福祉体制の強化なども進めてきました。

平成28年度は、本県の平均寿命を押し下げているがんや生活習慣

健康長寿県プロジェクト 29事業 3.2億円

全国最下位の平均寿命



これまでの成果

保健・医療・福祉包括ケアシステムの着実な普及

「だし活」「あおり食命人」の展開

【あおり食命人登録】H26年1月:130人→H28年2月:177人

ライフイノベーション戦略の展開

【医療機器生産額】H20:284億円→H25:444億円

【プリテオグリカン関連累計出荷額】H24:6億円→H26:73億円

攻めの姿勢で、 ”とことん”青森の食を 広めていきます

食

でとことんプロジェクトは、その名のとおり、本県の強みである食をとことん伸ばしていくことを目的に取組を進めています。

鮮やかなデビューを果たした特A米「青天の霹靂」をはじめとした県産品のブランド化やりんごの年間輸出量3万トンの達成などの成果を出してきました。

平成28年度は、これらの取組を加速させ、「青天の霹靂」のブランドを確かなものとするためのPR活動と、生産者全員

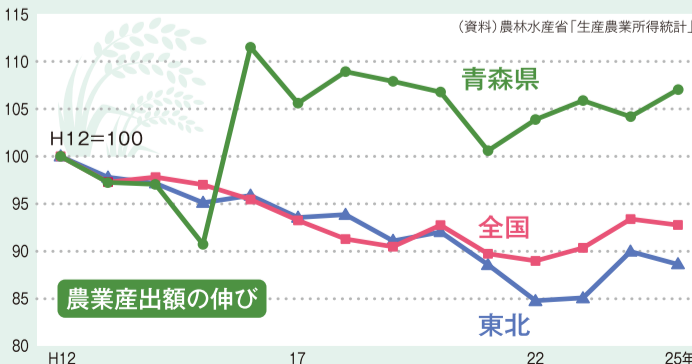
が出荷基準をクリアできるような生産体制を強化していきます。また、りんごの輸出促進については、産地の体制整備や輸出を担う生産者の育成も進めます。

そのほか、野菜などの導入による水田農業の複合化を進め、農家の所得向上を目指す取組や、農家の労働力不足を補うための仕組みづくりにも力を入れます。

今年度も、攻めの姿勢で、国内外に青森県の素晴らしい食をとことん広めていきます。

食でとことんプロジェクト 44事業 5.0億円

本県の農業産出額の伸び率は全国トップクラス



これまでの成果

「青天の霹靂」の特A評価取得を始め、農林水産品のブランド化も着実に推進

A!Premiumの運用開始

りんごなど農林水産品輸出量・額が増加

【りんご輸出量】H26年産:30,115t(過去最高)

交流人口のさらなる
拡大につなげる

平成28年3月26日の北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業と、同7月～9月に開催される「青森県・函館グステイネーションキャンペーン」は、青森県に新たな観光客を呼び込む大きなチャンスです。このため、**東青地域**では、津軽海峽圏を舞台にした民間団体によるさまざまなイベントを支援するなど、青森県と北海道を結ぶ幅広い視点で観光客の増加に取り組みます。さらに、旅行・雑誌業者などへ売り込みを図るなど、東青地域の魅力を全国へ積極的に発信していきます。

また、**西北地域**においては、五所川原市、中泊町と連携し、道南地域や将来的に新幹線が延伸する札幌などからの観光客の誘致に向け、地域の人財を活用したSNSでの情報発信を行います。さらに函館や札幌などで開催されるイベントでのPR、旅行商品造成を促すためのモニターツアーの実施や旅行者向けに観光情報の提供などに取り組んでいきます。

魅力を伝え価値を高める
「津軽の手仕事」

青森県には世界に誇る素晴らしい伝統工芸品があります。しかし、ライフスタイルの変化や安価な輸入品が増えたことなどにより、生産額が減少しています。その一方で津軽塗の重要無形文化財指定の動きや4年後に迫った東京

オリンピックなどは、まさに、日本の手仕事を世界にPRする絶好の機会です。このため、**中南地域**では、県産業技術センター弘前地域研究所、弘前市、職人の皆さんと連携して、「津軽の手仕事（津軽塗）」の戦略的なプロモーションを展開するなど、伝統工芸品産業の活性化へ向けた取組に挑んでいきます。

地域の魅力で挑む 人口減少克服

～6地域県民局による未来を変える挑戦～

県内の6地域県民局（東青、中南、三八、西北、上北、下北）でも、地域の強みをとことん伸ばし、課題をチャンスと捉え、魅力ある地域づくりや仕事づくりなど、人口減少克服に向けた取組にチャレンジしていきます。



提供：JR北海道



青森の豊かな「食」は、本県の最大の強み。そこで、県と生産者などが連携し地域のさまざまな「食」に関する取組を進めることで、所得向上、後継者の確保、雇用の創出につなげていきます。

ジュノハートを核に

「さくらんぼの里」を活性化

三八地域のさくらんぼの栽培面積は、県内の約8割を占め、観光資源にもなっています。しかし、園地の老木化が進んでいることから、近年、栽培面積が減少しています。そうした中、平成27年秋には、県

が独自に育成したさくらんぼの新品種「ジュノハート」の栽培がスタート。甘みが強く大玉で、可愛らしいハート型が特徴で、贈答用や観光果樹園での利用が期待されることから、ジュノハートの苗木を計画的に増やし、栽培技術を学ぶ研修会を開催するなど、ジュノハートの産地化に力を注ぎます。市場にお目見えするのは、平成32年以降の予定です。

地元で愛される

「まっしぐら」応援

県内で2番目に水稲作付面積が多い**上北地域**では、「まっしぐら」が、その95パーセントを占めていることもあって、県、地元生産者、米販売店、飲食店などがスクラムを組み、「地元で愛されるまっしぐら」を目指した取組を進めます。生産者などで結成する「チームまっしぐら」によるPR

活動や、応援協力店によるスタンプラリーの実施など、地域全体で「地産地食」を進め、地元産「まっしぐら」のさらなる消費拡大を目指します。

魅力ある持続可能な

漁業づくり

地域団体商標に登録された「大間まぐろ」、「風間浦鰺鯨あんこう」など、全国的に高い知名度を持つ魚介類が水揚げされる**下北地域**。しかし、近年、特産品のキアンコウやミズダコの漁獲量が減少傾向にあります。そこで、人気のキアンコウやミズダコ、マツモのほか、価格が高いマボヤを対象に、資源管理対策や養殖に向けた取組を進めます。また、漁業協同組合と連携して、首都圏や関西圏での販売促進に取り組むとともに、高い鮮度を保つたまま輸送する品質保持技術の開発などを進め、次世代につながる持続可能な漁業づくりに取り組んでいきます。

県と市町村の連携・協力で
目指す人口減少克服！

各地域県民局のほか、県内の各市町村でもまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、人口減少克服に本格的に取り組むこととしていきます。県では、市町村の総合戦略に基づく地域特性を生かした取組への支援を強化するとともに、移住促進など市町村と連携した取組を進めていきます。

創造的復興に向かって! ~ 東日本大震災から5年 ~



東日本大震災から5年となります。青森県はもとより、岩手・宮城・福島
の各県においても、これまでにない甚大な被害を受けたことから、一日も早
い復旧・復興に向けた取組が現在も続いています。

■青森県の取組

本県ではいち早くインフラなどの復旧を図り、さらには震災からの単なる
復元にとどまらない創造的復興の実現に向けて、被災者の生活再建支援、
生業づくり、災害に強い地域づくり、人財育成など、さまざまな側面からの
取組を積極的に展開しています。

■震災の教訓を忘れないために

私達の記憶からあの日を、そして、震災で得られた教訓を決して忘れては

なりません。そのためには、日頃から、県民一人ひとりが備えや心構えにつ
いて繰り返し考えていくことが大切です。

いざという時の連絡方法や避難経路、避難場所の確認、自宅内での防災
対策などを普段から心掛けましょう。大きな揺れを感じた時に、津波が来る
かもしれないというときの判断、すぐに避難する準備、少しでも高いところ
へ避難するという行動の一つひとつを日頃から意識しましょう。

■岩手・宮城・福島への応援!

岩手・宮城・福島の各県に対して、直接支援はできなくても、現地で活動
するNPO法人やボランティア団体を支援したり、観光で現地を訪れたり、
被災地の特産品を購入することで応援することができます。同じ東北の一
員として、引き続き応援していきましょう。

生活再建・産業復興局 ☎017-734-9580

県立高校に関する次期計画を検討中です!



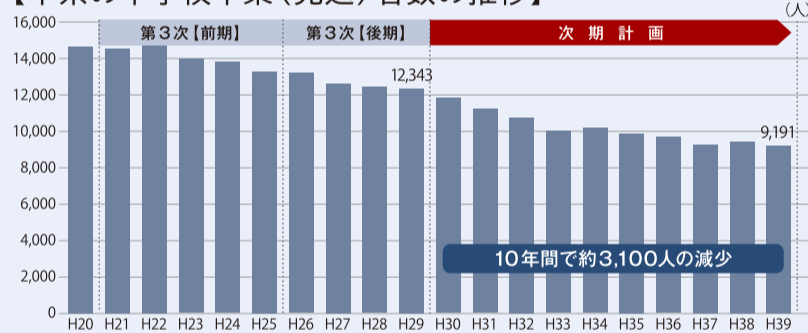
~未来を担う子どもたちの夢や志の実現に向けた高校教育を目指して~

県教育委員会では、青森県立高等学校将来構想検討会議から本年1月
25日に提出された「青森県立高等学校将来構想について(答申)」や県民
の皆様からのご意見等を踏まえ、平成30年度以降の県立高校に関する
計画を検討中です。

《検討の背景》

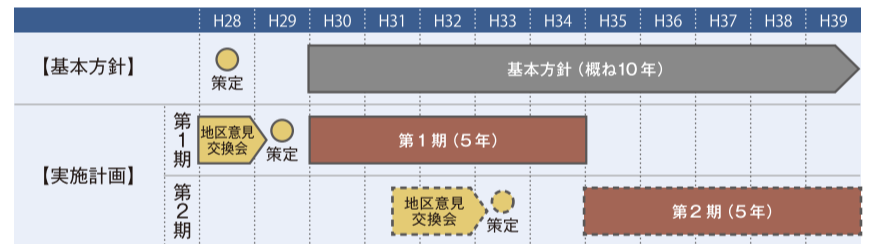
- ①グローバル化・情報化による社会の急速な変化
- ②生徒の多様化 ③生徒数の減少

【本県の中学校卒業(見込)者数の推移】



《次期計画の構成等》

- 次期計画は、県立高校の基本的な方向性を示す「基本方針」と具体的な学
校配置等を示す「実施計画」で構成します。
- 「実施計画」の策定前に、各地区の市町村関係者、小・中学校PTA関係者
等から意見を伺うための「地区意見交換会」を開催します。
- 「基本方針」や「実施計画」の策定に当たっては、パブリックコメントや地区
懇談会を実施するほか、随時、広く県民の皆さまからご意見を募集します。



■県教育委員会ホームページには、随時、答申の内容や計画の検討状況、
地区懇談会の日程等について掲載していますので、是非、ご覧ください。

詳しくは、[青森県立高等学校教育改革](#)

高等学校教育改革推進室 ☎017-734-9866

【県職員からのお知らせコーナー】河川砂防課 寺沢 純司 大雨洪水に備えて ~身近な河川の水位等をチェックしよう~



近年は局地的な集中豪雨による災害が頻発しており、昨年も9月の関東・東北
豪雨による鬼怒川の決壊など、大きな洪水災害が発生しました。青森県でもいつ
同じことが起こるかわかりません。

大雨による洪水や土砂災害から身を守るためには、早めに情報を知り、避難す
ることが大切です。

「河川砂防情報提供システム」では県内で観測している雨量、河川の水位などを
リアルタイムで配信しているほか、次の河川ではカメラ映像をご覧いただくことが
できます。(カメラ映像をご覧いただける河川: 岩木川、馬淵川、堤川・駒込川)

また、河川の水位が上昇した時にご希望のメールアドレスにお知らせする、メー
ル通知サービスも提供しています。

メール通知サービスは「河川砂防情報提供システム」からご登録いただけます。

大雨時にはお住まいの地域の河川の状況を確認し、早めの避難準備を心掛け
ましょう!

【河川砂防情報提供システムはこちらから】



(携帯電話版)



(スマートフォン版)



(PC画面)

(PC版 URL) <http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/>

万一の洪水被害から地域を守るため、住民・関係機関参加の総合的な訓練を行います。 見学自由(無料)

平成28年度 **馬淵川・高瀬川総合水防演習**

とき 2016年 5月29日(日) 8:30~12:30 会場 八戸市長苗代地先 馬淵川左岸(大橋上流)

主催 馬淵川・高瀬川沿川113市町村、青森県、国土交通省東北地方整備局

主な演習内容
●洪水対応訓練
●情報収集訓練
●東北水防技術競技大会
●関係機関の連携訓練
《同時開催》防災展

お問い合わせ 国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所 TEL 017-734-4521(代表) 〒030-0822 青森市中央三丁目20-38

詳しくは県庁 HP

河川砂防課 ☎017-734-9662

おいしく健康「だし活」ごはん!

「できるだし」シリーズは、「だし活」から誕生した青森ならではのだし商品です。今回はその中から、こちらの3商品を使ったレシピをご紹介します。

にぼ豆腐ハンバーグ

ひき肉に煮干しだしのうま味をプラス!
[一人分のエネルギー149kcal/塩分0.4g]

- ◎材料 ※材料は4人分です
- 豆腐(木綿).....1/2丁(200g)
 - 合いびき肉.....50g
 - ひじき煮(市販品可).....70g
 - パン粉.....小さじ2
 - できるだし 青森焙煎煮干し.....小さじ2
 - サラダ油.....小さじ1

- ◎調理法
- ①ボウルにAの材料を入れて良く混ぜ合わせ、小判型にする。
 - ②サラダ油を温めたフライパンで、①を両面焼く。

*お好みで、サラダを添えて。

野菜の和風グラッセ

野菜のおいしさを、だしが引き立てます。
[一人分のエネルギー36kcal/塩分0.2g]

- ◎材料 ※材料は4人分です
- にんじん(1cm輪切り).....80g
 - さやいんげん(ヘタを取って1/2カット) 20本
 - できるだし 海遊舎・万能だしパック 1パック
 - 水.....500ml
 - バター.....8g

- ◎調理法
- ①小鍋に水と万能だしパック、にんじんを入れて火にかける。
 - ②にんじんに火が通ったら、さやいんげんを加え、火を通す。
 - ③だしパックを取り出し、バターを加えて、水分が少なくなるまで強火で煮る。

赤いベジライス

野菜だしの風味が、味をしっかりと感じさせます。
[一人分のエネルギー459kcal/塩分0.9g]

- ◎材料 ※材料は2人分です(4人分の場合は倍量)
- ご飯.....茶碗2杯分
 - 冷凍ミックスベジタブル.....60g
 - A ロースハム(粗みじん切り).....1枚
 - しめじ(粗みじん切り).....50g(1/2袋)
 - 卵.....1個
 - できるだし 野菜だし<赤>.....1包
 - サラダ油.....小さじ1

- ◎調理法
- ①フライパンにサラダ油の半量を熱し、溶き卵をサッと炒めて取り出す。
 - ②同じフライパンでAを炒め、①を戻して野菜だし<赤>1/3量をふりかけて混ぜ、取り出す。
 - ③同じフライパンに残りのサラダ油を熱し、ご飯を炒め、②を加え、残りの野菜だし<赤>をふりかけ、全体に混ぜる。



- ①できるだし 青森焙煎煮干し 料理のどのタイミングでも、手軽にフリフリ、だし感UP!
- ②できるだし 海遊舎・万能だしパック 煮干とかつお節をベースに、昆布・椎茸・あご(とびうお)をブレンド。
- ③できるだし 野菜だし<赤> 東北女子大学家政学部が提案する、赤い野菜の本格洋風だし。



◎レシピ監修: 総合販売戦略課 / 料理作成: 長尾律子(青森県栄養士会会員)

食品の“栄養成分表示”を見る習慣をつけて「健やか力」アップ!

食品のパッケージに書かれている栄養成分表示を見たことはありますか。エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量(ナトリウム)等の栄養成分値が書かれています。ナトリウムを食塩の量に換算する式は、食塩の量(g)÷ナトリウム(mg)×2.5÷1,000です。栄養成分表示を確認して、菓子類のエネルギーや調味料・加工食品の食塩の摂り過ぎなどに注意しましょう。
*「健やか力(りよく)」とは、健康情報や医療情報を適切に利用し、活用する力をいいます。

INFORMATION

あおもりインフォメーション

平成28年度県税改正のお知らせ

平成28年度県税改正の主なものは次のとおりです。

税目	内 容	内 容
法人事業税	所得割の税率の引下げ 及び外形標準課税の拡大	所得割(現行) 6.0% → (H28~) 3.6% 付加価値割(現行) 0.72% → (H28~) 1.2% 資本割(現行) 0.3% → (H28~) 0.5% ※外形標準課税対象法人に限る。
自動車取得税	被災代替自動車の取得に係る非課税措置	1年延長
自動車税	グリーン化特例の延長等 被災代替自動車等の非課税措置	①1年延長 ②軽課に係る基準の切替え等 3年延長

詳しくは、県庁HP [税制改正](#) [Q検索](#) 税務課 ☎017-734-9064

下北地域健康福祉部移転のお知らせ

むつ保健所他、下記の機関は4月18日(月)に移転します。移転に伴い、現在のむつ保健所庁舎(むつ市大湊新町11-6)は閉鎖しますので、お間違いのないようお願いいたします。

移転機関	電 話	移転先
むつ保健所	0175-31-1388	むつ市中央1丁目3-33 青森県むつ健康福祉庁舎 (旧むつ警察署庁舎)
青森県動物愛護センターむつ市駐在	0175-23-7888	
下北地方福祉事務所	0175-22-2296	
青森県むつ児童相談所	0175-23-5975	

健康福祉政策課 ☎017-734-9277

高等学校等奨学生募集中!

■対 象: 保護者が青森県の住民で、高等学校等に在学する生徒

■募集人員: 約700人

■貸与月額:	国・公立		私立	
	自宅通学者	自宅外通学者	自宅通学者	自宅外通学者
	18,000円	23,000円	30,000円	35,000円

■返 還: 無利子で、貸与終了後1年据置、貸与期間の3倍の期間内に返還(3年間借りた場合は9年間で返還)

■申込・締切: 県内の各高等学校等にある申込書と添付書類を在学する学校が指定する日までに高等学校等へ提出(高等学校等から本会への締切は4月28日(木))

青森県育英奨学会(教職員課内) ☎017-734-9879

平成28年度 青森県職員採用試験のお知らせ

職員採用試験の日程や実施内容、また、県職員の仕事内容や各職種の先輩職員メッセージなどの情報を掲載したパンフレット『平成28年度青森県職員採用総合案内』を作成しました。パンフレットは県庁正面受付などで入手できるほか、ホームページでもご覧いただけます。

【平成28年度各採用試験の第1次試験の日程】

●職員採用試験(大卒程度・社会人枠).....6月26日(日)

●職員採用試験(短大卒程度・高卒程度).....9月25日(日)

詳しくは、県庁HP [職員採用](#) [Q検索](#) 人事委員会事務局 ☎017-734-9829

なお、警察官採用試験については、青森県警察本部警務課人事・採用係

☎0120-337-314へお問合わせください。

詳しくは、[青森県警察 採用](#) [Q検索](#)

みなさんと県庁を結び
県政
インフォ
メーション

テレビ

- RAB「LINK/青森県」(30秒スポット)
- RAB「大好き、青森県」(第三日曜日)17:00~17:15 (放送週が変更になることがあります)
- ATV「みんなの県庁!」(土)16:55~17:00
- ABA「メッセージ」(土)9:30~9:35
- 青森県広報広聴課公式Facebook(<https://www.facebook.com/AomoriPref.koho>)
- 青森県庁Twitterアカウント(@AomoriPref)
- 青森県広報広聴課Twitterアカウント(@aomorist)

ラジオ

- RAB「青森県広報タイム」(月)~(木)7:30~7:35
- エフエム青森「あおもり・ふぁん」(月)~(金)16:55~17:00
- エフエム青森「申吾のほっとチャンネル」(第一日曜日)7:00~7:30

新聞

- 「広報あおもりけん」毎月1日・16日 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報

編集発行/青森県広報広聴課 ☎017-734-9137 〒030-8570 青森市長島1-1-1/県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/>

※「県民だよりあおもり」は点字版・録音版も発行しています。ご希望の方は広報広聴課までお知らせください。

この印刷物は527,000部作成し、印刷経費は1部当たり9.2円です。

県民だよりあおもりの印刷に係る電力2,964kwhは、県内の住宅用太陽光発電で発電されたグリーンな環境価値を活用し、グリーン化されています。詳しくは県庁[グリーン電力証書](#) [Q検索](#)